

石川県下水道 BCP 作成に関する共同研究

調査研究年度：2015 年度

地震・津波対策

地方公共団体との共同研究等

【研究の目的及び成果】

石川県では、平成 26 年度に県内の全市町がそれぞれ「簡易な下水道 BCP」を作成している。本研究では、石川県、県内全市町（18 市町）及び本機構の枠組みで、下水道 BCP のブラッシュアップを目的に、「内容の充実化」と「広域的な連携」をテーマとした勉強会・ワーキング等を行った。本研究を通して、参加自治体全体の災害意識向上と効率的な下水道 BCP の策定という成果が得られた。

【検討結果の概要】

(1) 内容の充実化（地震発生時における概略の被害想定を実施）

各自治体における管路の被害延長の算出と被害率をメッシュ毎に色分けし、管路被害率マップ（図-1）を作成



図-1 管路被害率マップ



BCP への反映



下水道 BCP 反映結果

① 被害延長より、地震発生時の管路調査について必要人数と必要日数を想定し、支援要請人数の把握や非常時行動計画（表-1）に反映した。

表-1 非常時行動計画

目標時間	行動内容	担当
直後	来訪者・職員の避難誘導	総務係
直後	職員の安否確認	総務係長
・・・	・・・	・・・
～2日	管路の緊急点検・調査	維持係
・・・	・・・	・・・

② 管路被害率マップより

- ・ 管路被災の危険がある地域を事前に把握した。
- ・ 近傍の河川、水路管理者と災害時緊急放流等の協議、調整の必要性を検討した。
- ・ 資機材の備蓄や応援による対策を検討した。

(2) 広域的な連携（下水道 BCP 訓練の検討と訓練の実施）

下水道 BCP をより実効性のある計画にするため、広域的な連携を含めた訓練計画について検討を行った。検討に際しては、参加自治体とのロールプレイング方式（シナリオ非提示）による訓練を実施し、得られた課題を整理した（図-2）。

訓練



課題を整理



訓練により得られた課題の一例

- 県への被害報告が周知されていない（様式の埋め方など）
- 各種様式の充実と事前に書類の準備が必要
- 班毎の業務量の隔たりに対する協力体制の検討が必要



下水道BCPのスパイラルアップに活用

図-2 訓練の状況と得られた課題

【特徴】

- ・ 地震被害想定に基づく下水道 BCP の内容充実化
- ・ 本機構のノウハウを生かした下水道 BCP 訓練等を通じ、BCP 内容の再確認、認識の共有やブラッシュアップの達成。

※ 石川県、石川県内 18 市町、（公財）日本下水道新技術機構
 問い合わせ先：研究第一部 鈴木 穰，田邊信幸，菊川哲生【03-5228-6597】

キーワード

下水道 BCP, BCP 訓練, 広域連携